

art 諸橋近代美術館 「ととのう展～ヘルスケアにつながる美術館～」 4/12(土)～6/29(日)

北塩原村にある諸橋近代美術館では、ヘルスケアをテーマにした一風変わった展覧会「ととのう展～ヘルスケアにつながる美術館～」を開催している。この展覧会ではサウナー（サウナ愛好家の通称）用語として流行し、2021 年にユーキャン新語・流行語大賞にノミネートされたことで話題になった言葉「ととのう」をキーワードにアート鑑賞、美術館を通して「ココロ」と「カラダ」が「ととのう」癒しと健康増進体験を提案する。

ととのう展では、来館者がどうやったら「ととのう」かを念頭に、①序章／“ととのう”ためのエクササイズ、②第 1 章／「博物館浴®」で“ととのう”、③第 2 章／画家の印象に“ととのう”、④第 3 章／天国で“ととのう”、⑤特別展示という、5つのパートで構成している。

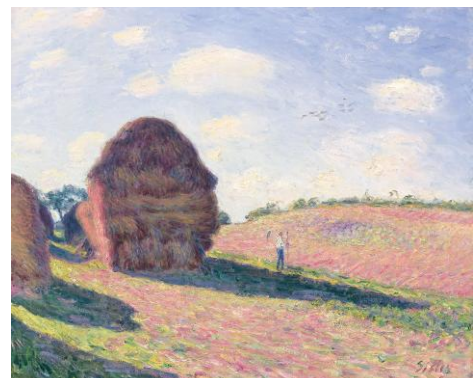
展示室の入口には「ととのう展」にちなんだ2つのちょっと変わったものが置かれている。1つ目が使い捨ての耳栓。美術館には、ゆっくり鑑賞したいというニーズがある一方で、絵を見ながらおしゃべりしたいというニーズもある。静かに見たい人、おしゃべりしながら見たい人、どちらにとっても居心地の良い美術館になればと耳栓を設置した。もう一つが館内の歩数マップ。もっとも手軽な健康増進手段であるウォーキングを意識できるように、館内の距離と目安歩数、消費カロリーを掲示した。当館の展示室内は順路の距離を単純計算すると200mしかないが、美術館ではその鑑賞時間のほとんどを歩きながら過ごしている。鑑賞に没頭しているうちに意外と歩いていたりもするので、ぜひ来館の際はスマートフォンなどで歩数や消費カロリーなども測定しながら鑑賞を楽しんでいただきたい。

展示室でも少し変わったものを紹介している。ベラルーシの眼科医療団体が作成した「あなたの目の体操」という目のストレッチ動画だ。美術館の来館者の多くは車で長距離運転をして当館に訪れる。そこで、来館者に少しでも「ととのう」鑑賞をしてもらうため、最初は目のストレッチからスタートする。序章では、このほかに、よく「みる」ためのエクササイズとして、マインドフルネス（意図的に、今この瞬間に、価値判断することなく中を向けること）の理論を応用した、「みる」ための姿勢や呼吸、意識の仕方や、「見方」のエクササイズとして、人によって見え方が変わってしまう錯視の動画や不思議なフォントを紹介している。本誌に掲載している作品「かたちかな（部分）」（図1）も、私たちのよく知る言葉が表されているのだが、皆さんはおわかりだろうか。答えはぜひ

（図1）



いい《かたちかな（部分）》2020 年 ©いい 2025



アルフレッド・シスレー《積み藁》1895 年

展示室でご確認いただきたい。

続けて第 1 章では、九州産業大学で研究が進められている「博物館浴®」研究をはじめとして、世界で取り組まれている美術館や博物館での癒し効果や健康効果の研究について紹介する。今日、美術館体験が「ココロ」と「カラダ」のヘルスケアにつながることで、科学的に明らかになってきている。続く第 2 章では、印象派をはじめとした芸術家たちの戸外制作の背景にあったツーリズムの成立と健康志向について画家たちの言葉とともに紹介する。美しい自然を描いたパリの芸術家たちは、一方で都市部の公害に悩まされる都市市民でもあったのだ。そして最終章である第 3 章では、イタリアの詩人ダンテ・アリギエーリやスペインの芸術家サルバドル・ダリの天国観を紐解きながら、作曲家とくさしけんご氏が当館のために制作した、美術館のための 12 分計音楽『MELTING CLOCK FOR MOROBI』とともに、鑑賞に没入するほどに時間が溶けていくような鑑賞体験を提案している。

そして最後の特別展示では、「ととのう」という言葉の流行の立役者であるマンガ家タナカカツキ氏によるオリジナル描き下ろし漫画や、サウナベンチに座って鑑賞する「サ鑑賞」という鑑賞プログラムを紹介している。

ぜひ美術館に遊びにきて、裏磐梯の大自然とともに「ココロ」と「カラダ」が「ととのう」美術館体験を味わっていただきたい。
学芸員 佐藤 芳哉

私のフランス語日記 Mon journal en français

HAHA NO MATSU SATO

Les impressions diverses sur la ville natale

Un jour, j'ai trouvé un programme télévisé intéressant dans un programme de journal et je l'ai enregistré sur le vidéodisque.

Un autre jour, je l'ai regardé à tête reposée. Le titre de cette pièce est [HAHA NO MATSU SATO] (La ville natale où maman attend).

Un patron de grande entreprise urbaine, un retraité à qui on a demandé le divorce, une médecin ayant perdu sa mère, chacun a fait l'expérience de vacances dans la ville natale de deux jours projetés par une société de carte en payant grosse somme d'argent.

Les distributions des rôles sont admirables, surtout le rôle de maman fantastique est superbe.

Ce programme télévisé est basé sur le roman. J'ai emprunté ce roman à bibliothèque et je l'ai lu en découvrant des nouveautés. Finalement, j'ai acheté ce roman.

On quitte la ville natale et on se sent nostalgique.

Les gens de la grande ville désirent leur ville natale.

[Ah! Tout le monde a une ville natale, une ville natale!]

Il y avait le temps où cette chanson était populaire au Japon.

[Quand j'ai la nostalgie de l'accent de la ville natale, je m'en vais l'écouter dans le tumulte de la gare.]
(ISHIKAWA TAKUBOKU)(C'est ma traduction d'essai.)

C'est l'un de mes poèmes favoris.

Toshio SATO

「母の待つ里」ふる里雑感

ある日、新聞の番組欄で、気になるテレビドラマがあったのでビデオに録画し、後日ゆっくり観た。題名は「母の待つ里」である。

都会の大企業の経営者、離婚を突き付けられた退職サラリーマン、母を亡くした女医、それぞれが大金を払いカード会社の企画する1泊2日のふる里体験をするものだ。配役もいい。特に架空の親子を演ずる母がすばらしい。

小説が基になっているので図書館で借りて読むと、また新たな発見がある。それから本を購入した。

人はふる里を離れ懐かしむ。都会人はふる里を求める。「ああ、誰にもふる里がある、ふる里がある」こんな歌が日本で流行った時期があった。

「ふるさとの訛(なまり)なつかし停車場の人ごみのなかにそを聴きにゆく」(石川啄木)(試訳)。

これは、私の好きな詩(うた)の一つでもある。

(フランス語会話教室受講生 佐藤敏雄)



フランス語会話 福島教室担当講師2名をご紹介します

年間30回土曜日に開催しており、今年度から2名交替でご担当されます。

アリアンス・フランセーズ仙台
パスカル・マルタン院長
Pascale・Martin

フランス西部ナント市生まれ

1995年 パリ第8大学 モダン文学学士
在学中、東京仏文化学院インターンシップ
2008年 ナント大学 法律・経営・教育を学ぶ

職歴等

1998年1～12月 JICA 仏語講師
2001年9月迄 在日フランス大使館三言語担当
2018年11月～2019年9月
ナント市教育局、ナント大学の外国人留学生講師

日本在住11年

スタニスラス・ブリッド講師

Stanislas・Bride

フランス北東部ランス市1999年生まれ

2020年 アムステルダム大学ユニバーシティカレッジ
2020年9月～2022年7月
パリ政治学院国際ガバナンス・外交学修士
2022年9月～2024年3月

東京中央日本語学院日本語能力試験N2

職歴等

在パラマリオ仏大使館文化活動参事官インターン
Bar 一步(恵比寿)1年間日本語習得



フランス語会話教室 受講生募集しております！ クラスは6クラス、レベルや希望に応じたクラスにいつでも入会できます。映画、音楽、旅行など、素敵なフランス文化が気軽に身につく、新しい世界も開きます。年30回。場所は福島県林業会館 1F 会議室。ぜひ一度見学にお出かけください。 講師はアリアンス・フランセーズ仙台 パスカル・マルタン院長、スタニスラス・ブリッドさん。		
2025 年度授業日程及び時間割		福島県林業会館 1F 会議室

映画 男と女

2024年5月フランス女優アヌーク・エーメが92歳で亡くなった。1966年のクロード・ルルーシュ監督の映画「男と女」の主演であった。あのダバダバダ♪ダバダバダ♪という音楽が有名で、オスカーの外国語映画賞やパルム・ドールを受賞した。彼女は自分好みの美人ではなかったが、巷では美人の評価であった。映画では夫と死別した女性脚本家と妻が自殺したカーレーサーがノルマンディのドーヴィルの小学校の寄宿舎にそれぞれの子供を預け、ストーリーが始まる。しかし、お互いに過去を引きずって二人の想いは成就しない。その時の映画のキャッチコピーは“立ち去れぬ過去の想いに濡れながら、愛を求める永遠のさすらい...その姿は男と女”であった。

私はその映画を封切から20年位たってから見たが、とても印象的な映画であった。2008年9月にパリ旅行の際にドーヴィルまで足をのびたことがある。かつてドーヴィルは「パリの21区」（パリは20区までしかない）と呼ばれるほど、パリから避暑に訪れる人が多かった街である。海辺の避暑地には高級ホテルや別荘が立ち並び、広場やカジノ、競馬場などで世界中の観光客を引き寄せている。しかし私が行った9月下旬は、落葉が始まり、秋の気配が強く寒々としていた。映画の中で雨の降る日、カーラジオを聴きながら郊外を2人でドライブするシーンがある。自分でもこのような状況になるとあの

シーンを思い出すが、自分の場合には隣に座っている女性が配偶者であるのが現実に戻る。

それから53年後、前作と同じ監督、主演俳優2人で「男と女 人生最良の日々」（2019年）が制作された。今は海辺の老人ホームで余生を送る元カーレーサー。彼には認知症状が出ている。この老人ホームは福島市のそれとは違ってすごく豪華で、室内プールまで装備してある。入居老人がプールに入って、溺れたりしないのかななどと心配しながら...。彼の息子が父のために、父がずっと追い求めていた女性を探しだし、別々の道を歩んできた2人は遂に再会を果たす。映画では2人の物語を過去の映像をカットバックしながら描いている。しかし彼は彼女が誰なのか十分に理解できていない。89歳と87歳の2人の会話はスムーズではないが、楽しそうであった。認知症では新しい出来事を記憶できないが、昔の古い記憶は比較的保たれている。「昔日の楽しい思い出」は人生の終末期に一番大切なことかもしれない。

土屋 敦雄（会員）



フランス料理を楽しむ会 受講生募集しております！

会 場：福島 MAX アオウゼ 4 階「調理実習室」

エプロンとランチョンマットを各自持参して下さい。

時 間：10：00～13：00

定 員：各コース 12 名

ぜひ一度お試し体験にお出かけください。

今後の講座日程について

※10月、11月は公的事業等優先使用のため日程にご注意下さい。

コース		開催月日		講 師
月曜コース	前期	第3回 7月 7日	第4回 9月 8日	渡邊昭徳 (アルソーニ オーナーシェフ)
	後期	第1回 10月 27日	第2回 11月 25日 (火)	水野明彦 ※(お菓子の日)7/7、2/9(予定) (郡山ビューホテルアネックス「茶々」料理長)
		第3回 2月 9日 予定	第4回 3月 9日 予定	
水曜コース	前期	第3回 7月 9日	第4回 9月 10日	菅野喜代治 (県立美術館カナル前オーナーシェフ)
	後期	第1回 10月 29日	第2回 11月 19日	
		第3回 2月 18日 予定	第4回 3月 11日 予定	